

横浜マリントワーの歴史パネル展示に協力します

灯台としてのマリントワーやペリー提督の横浜上陸、
関東大震災から復興で作られた山下公園の歴史などを紹介しています



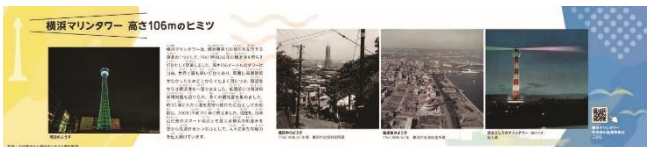
展示風景
(手前にイスなどの無い写真はあり
ますか?)

横浜マリントワー（左）と歴史パネルの展示風景（右）

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団が管理運営する横浜開港資料館・横浜都市発展記念館は、横浜マリントワー（管理運営：リストプロパティーズ株式会社）2階に設置された歴史パネルの制作に監修協力しました。

灯台としての横浜マリントワーや、幕末のペリー提督の上陸、もののはじまりの街横浜など、今回設置されたパネルでは、展望台からの眺望を活かした横浜の歴史を紹介しています。横浜を訪れる多くの方々に楽しんでいただける歴史パネルです。山下公園、横浜中華街、元町商店街といった歴史ある横浜の観光地巡りの際にぜひお立ち寄りください。

横浜マリントワー 歴史パネル 全6種



灯台としての横浜マリントワー



横浜開港後の街なみの形成



ペリー提督の横浜上陸



関東大震災からの復興と山下公園



江戸時代の吉田新田開発



もののはじまりの街 横浜

次ページあります

灯台としての横浜マリントワー



灯台として使用されていた時代の横浜マリントワー（絵葉書 個人蔵）

横浜マリントワーは、横浜開港 100 周年を記念する事業の 1 つとして、1961（昭和 36）年に横浜港を照らす灯台として開業しました。高さ 106 メートルのタワーは当時、世界で最も高い灯台であり、周囲に高層建築がなかったためどこからでもよく目につき、展望室からは横浜港を一望できました。低層部には海洋科学博物館も設けられ、多くの観光客を集めました。約 50 年にわたり港を見守り続けた灯台としての役割は、2008（平成 20）年に終わりました。現在も、日本近代史のスタート地点とも言える横浜の街並みを空から見渡せるシンボルとして、人々に新たな魅力を伝え続けています。

QR コードから横浜マリントワー開業時の映像もご覧いただけます。
（横浜都市発展記念館所蔵「神奈川ニュース ハマに新名所」1961 年



横浜開港資料館 施設概要

【名 称】 横浜開港資料館

【所 在】 横浜市中区日本大通 3

【概 要】 横浜開港資料館は、横浜開港百年を記念して実施された「横浜市史」編纂事業の資料を基礎に、昭和 56 年（1981）6 月 2 日の開港記念日に開館しました。この地は安政元年（1854）の日米和親条約締結の地であり、また、旧館は旧イギリス総領事館（横浜市指定文化財）です。19 世紀半ばの開港期から関東大震災に至る時期を中心とした資料を収集・保管、整理し、調査研究を行い、その成果を常設展や企画展で紹介するとともに、閲覧室で公開しています。横浜開港資料館は資料を通じて横浜の歩みを次の世代に伝える「近代横浜の記憶装置」としての役割を果たしている施設です。



近代建築としても人気の高い旧館（旧英国総領事館）と中庭に植わる横浜開港のシンボル玉楠の木

横浜都市発展記念館 施設概要

【名 称】 横浜都市発展記念館

【所 在】 横浜市中区日本大通 12

【概 要】 横浜都市発展記念館として使用しているこの建物は、昭和 4 年（1929）に横浜中央電話局の局舎として建てられた歴史的建造物です。局舎の設計を担当したのは、横浜出身の若手建築家中山広吉で、外壁全面にタイルを貼ったモダンなデザインは、昭和戦前期の通信建築（郵便局・電信電話局など）の大きな特徴でした。

竣工当時は、大さん橋通りに面した場所がメインの玄関でした。大さん橋通りから入って右手に加入課事務室（現・事務室）があり、ここで電話加入者の受付をおこなっていました。

建物は展示施設として大幅に手を加えられましたが、旧第一玄関だけは、改修前の雰囲気そのまま残しています。2 階は横浜ユーラシア文化館常設展示室、4 階は横浜都市発展記念館常設展示室、3 階にある企画展示室では両館の企画展示を開催しています。歴史的な建造物とあわせてご覧ください。



横浜市認定歴史的建造物「旧横浜市外電話局」を活用した博物館

お問い合わせ先

横浜開港資料館 TEL 045-201-2100
副館長：青木祐介 担当課長：羽毛田智幸